

半世紀を振り返り，来る半世紀を見通す

熊澤 浄一

日本化学療法学会前理事長



日本化学療法学会が創立されたのは1953年（昭和28年）である。すなわち50年，半世紀が経過したわけである。

社団法人化後，初の学術総会である第50回日本化学療法学会総会が本年5月9日より11日まで，神戸国際会議場と神戸ポートピアホテルにおいて守殿貞夫会長主宰の下に開催された。

そのおりに日本化学療法学会50年，半世紀を祝賀するとともに，その歴史を振り返り学会の足跡を整理し，将来を展望する特別の会合「日本化学療法学会・50周年記念特別企画」が9日の午後2時半から6時まで，神戸ポートピアホテルのポートピアホールで開催された。

守殿会長の開会の挨拶に続き「日本化学療法学会50年の歩みと今後の展望」「最小侵襲手術時代の感染発症阻止化学療法」「基調講演—化学療法学の現状と将来—」「特別発言」「記念講演」がとり行われた。

「日本化学療法学会50年の歩みと今後の展望」は熊澤の司会で桑原章吾氏，清水喜八郎氏，齋藤厚氏に加え上田泰氏のビデオによる特別参加により，日本化学療法学会の成り立ち，その後の業績，医療界や一般社会への貢献度の評価などともに将来への期待，要望が討議された。「温故知新」の精神で貫かれた有意義な報告であったと自負している。

内視鏡手術の普遍化により周術期の抗菌薬使用法も当然のことながら変わってきている。「最小侵襲手術時代の感染発症阻止化学療法」は谷村弘氏司会により竹末

芳生氏，三嶋廣繁氏，荒川創一氏がそれぞれの立場から新しき考え方を述べられたが，日本化学療法学会の責務が時代の流れ，動きに応じ多様化することをクローズアップしていただいた。

島田馨氏司会での「基調講演—化学療法学会の現状と将来: Present and Future of Antibacterial and Antifungal Chemotherapy」は今回の記念特別企画の意義をよく理解されたV. T. Andriole氏の真に含蓄のある講演であった。

柴孝也氏の企画・構成・司会による上田泰氏の特別発言は，ビデオによるお話しであった。巧みに編集されていたため，短時間であるにもかかわらず，日本化学療法学会黎明期が鮮やかに浮かび上がり，上田泰記念感染症，化学療法研究奨励賞を設定されるに至られた，上田泰氏の熱き想いが身近に感じられる一刻であった。そのお話しのなかに登場された梅沢浜夫，佐々貫之，石山俊次，鳥居敏雄，久保郁哉，島田信勝，岡林金次郎，八木澤行正各氏，それにももちろん，上田泰氏に“日本化学療法学会を設立していただき，ありがとうございます。”と心からの感謝の言葉を捧げさせていただきたい。

寛仁親王殿下による記念講演は守殿貞夫会長の司会で行われた。殿下御自身の闘病生活より得られた医療の抱える諸問題とそれらの改善策の案出方法も具体的に提示され，病と闘う精神力の強さとともに病とつき合う考え方，生き方の，一種の凄さに会場は圧倒されてしまった。



午後6時から、同ホテル大輪田の間において50周年記念パーティー兼、会員懇親会が行われた。寛仁親王殿下も参加され、多くの会員の方々と親しく歓談されたが、そのお人柄の素晴らしさに、50周年記念会に真にふさわしい方においでいただいたものか…と関係者一同喜び合った次第である。

この記念特別講演企画は、私を含め多くの方々も参画

させていただき、約1年前より具体案が検討されたが、守殿貞夫会長の英断と実行力によるところがきわめて大であった。これは考えようによれば、第50回日本化学療法学会総会を守殿貞夫氏に任じた、日本化学療法学会員の叡智の賜物とも言うことができる。このことに理事長として関与することができたことは、嬉しき限りであり、また大きな誇りとするところである。